

街歩きのクイズラリーの途中で地元の住民に話を聞く子どもたち＝白山市白峰で



白山麓の魅力を再発見する産・官・学連携イベント「始動！白峰探検隊」がオパークには宝物がいっぱい」が八日、白山市白峰地区一帯であった。市内の親子連れら二十人が、街歩きのクイズラリーを通して地域の歴史や文化に触れた。(谷知佳)

10年かけ「倉光町志」

親子ら白峰'宝探し'

古民家や寺院 クイズラリー

二〇一〇年から毎年、白山麓でフィールドワークに取り組み、関西学院大(兵庫県)総合政策学部の学生たちが企画した。昨年九月に市全域が日本ジオパークに認定されたPRの一環として、市や近隣の企業も協力した。親子らは五組に分かれて地区内の県白山ろく民俗資料館を出発。古民家や寺院を見学しつつ「特産物のキノコはなんでしょう」「屋根に掛けられたのはしごは何のために使われるでしょう」といったクイズの答えを考えた。地元の人に教えを請う場面も。土蔵が並んでいる一角では、竹ト

関学大生企画「地元の魅力感じて」

シエさん(へち)から「火災から着物や道具類を守るために建てられた」などと教わった。毎年この地区で開催されている「雪だるままつり」にちなんだ造形物も多く見られ、初めて訪れた同市東明小学校五年の谷口未璃唯さん(こ)は「雪だるまの形をした窓があった」と驚いていた。いずれも関西学院大四年の大隅芽子さん(こ)は「地域のことを楽しみながら学んでもらえるよう工夫した」、河内泉希さん(こ)は「インターネットを使い、関西でも白山の良さを発信したい」と話した。

500匹「自由に捕まえて」

秋の代表的親しんでもらふれあい県山市八幡町)入館者なら誰でもできる巨大「パッタカカ広場」を館内開設した。ネットで困っ、広さ五十

てもらいたいし、倉光一せは倉光町内会の杉村

手向けの句を詠み上げて千代女

白峰の魅力

クイズで学ぶ

児童と関西学院大生

関西学院大総合政策学部の久野武教授（環境行政）と大学生ら13人は8日、白山市白峰で「クイズ合戦」を行い、小学生15人がまちなかを歩いてクイズを楽しみ、白峰の魅力を探った。

クイズ合戦は、学生
の白山麓実習の一環。
児童は県白山ろく民俗
資料館で地図を受け取
った後、まちかどの学
生から白峰の伝統食
「おろしうどん」など
にまつわる問題を受け
取った。児童たちは答
えを探すため住民に聞
き取りし、楽しみなが
ら食文化や歴史を学ん
だ。